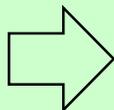


# 日本なしの機械化や品種構成の最適化を通じて適期適作を徹底した省力・高品質栽培 ～きらり園（愛知県西尾市）～

## 経営体の概要

平成20年  
基幹作物：日本なし  
経営面積：1.5ha



現在：令和元年  
基幹作物：日本なし  
経営面積：2.2ha

## 取組の経緯と経営転換のポイント等

きらり園は、西尾市の日本なし平均経営面積の8倍強の2.2haを家族で経営している。平成6年に着工した国営かんがい排水事業等により、老朽化、機能低下していた基幹水利施設の改修・更新が行われたことで、用水が安定的に供給されている。なし生産において夏季の高温対策が課題の一つであるが、豊富に供給される用水を適期かん水することで樹勢の維持・回復や果実の収量、品質に効果を発揮し、経済的な手法で高品質ななしの生産が可能となっている。また、ほ場を大区画化したことで機械化による栽培管理の省力化が図られ、経営の大規模化が実現している。化学合成農薬の使用を軽減して生産されたなしは、同園オリジナルなし加工品とともに同園の直売所で販売するなど、地域の農業の維持・発展にも貢献している。

## 営農改善のポイント

### ①省力化・低コスト化

畝間を地域の慣行栽培より広い7m取り、収穫、防除、施肥、改植など主要作業に大型機械を利用している。また、幸水から新高まで複数の品種をリレーし、繁忙期の分散と収穫期の長期化を図っている。更に早期成園化技術として、なし樹体ジョイント仕立ての試作園を作り、一層の省力化を目指している。

### ②栽培技術の確立・向上

環境に配慮したIPM（総合的病虫害・雑草管理）に基づく栽培管理を実践している。ナシヒメシンクイムシ対策に交信かく乱剤を全ての畑に設置するとともに、夜蛾が多い山際の畑には、防蛾灯を設置している。これらの取組により、主要病虫害の発生を抑制しつつ、化学合成農薬の利用を地域の慣行栽培の半分程度としている。

### ③流通・販売の工夫

同園のなしの殆どは、7月下旬から10月下旬まで営業する直売所で販売しており、お中元等の地方発送も直売所で受注している。多くのファンを持ち、出荷シーズンになると絶えずお客が訪れ、完売になることも多い。また、オリジナル加工品として、経営者夫婦で企画開発したジュース、ジェラート、ジャムの3種を生産し、直売所で販売している。



## 事業概要

事業種：国営かんがい排水事業  
関係市町：岡崎市、碧南市、豊田市、安城市、西尾市、幸田町  
受益面積：7,073ha  
事業期間：平成6年～平成23年（平成24年～26年）  
事業目的：用水改良  
主要工事：ダム1箇所、頭首工2箇所、用水路L=57.4km、水管理施設

## 位置図（愛知県）



## <問い合わせ先>

東海農政局  
農村振興部農地整備課  
課長補佐（競争力強化事業推進）  
電話：052-223-4638

（令和元年度調査時点）